

# 高島市民クラブ

## 市民の納める税金の使い道



八田吉喜 議員

今、福祉といえは「金が使えない」国も県も市民も文句を言わない。そうした中、多くの福祉施設が行われている。「元気なお年寄りをつくらう」と高島B&G・新旭いきいき元気館・マキノ白谷温泉では異常と思えるほどの低使用料金が設定されている。インフルエンザ予防接種料金は、高齢者と一般との負担の格差が大きく、60歳以上が千円に対し、一般は4千円である。教育費負担の多い若い世代が、こうした高額なインフルエンザの予防接種を果たして受けに行くのか。この様な税金の使われ方は、自治の確立から随分かけ離

れていると思うが、どのように考えられているのか。6月補正予算で白谷温泉施設の建替えに3億3千990万円という予算が組まれている。この施設が本来に高齢者の健康づくりの建物と言えるのか、何を目的としているのか疑問である。「温泉の効能を利用し、高齢者の健康の保持・増進に寄与する」というのであれば、浴場をもっと重視した設備にし、多くの人々が利用できるような施設にするべきではないか。温泉に隣接されている建物は果たして必要なのか。維持管理費が市の財政を圧迫したり、民間飲食業者との問題は

マキノ白谷温泉施設 計画平面図



ないのか。食事をすれば出費もかさむ。そう何回もこられない。主旨である「高齢者を中心とする市民の健康つ

くり・市民の交流の場」とは少し外れているのではないか。

べき視点にたった「自助・互助」を引き出し、「共助・互助」するまちづくりがこれからの課題であると認識していま

### 市長

住民福祉の向上を図るため、各部では各種の施策、事業を展開しています。健康福祉の分野では、乳幼児からお年寄りまでの年代の方々々が健康で活力ある生活を過ごしていただけるよう、様々な保健福祉サービスを実施しています。しかし、少子高齢化が進む中、必要とする人に必要なサービスを提供し、自立支援という福祉が本来目指すべき視点にたった「自助・互助」を引き出し、「共助・互助」するまちづくりがこれからの課題であると認識していま

す。保健事業は、疾病予防を目的とした個別健康教育や高齢者が活動的で生き生きと毎日がすごせるよう、様々な事業を展開していますし、これが疾病予防となり、ひいては医療費の抑制にもつながるものと考えています。乳幼児の定期予防接種は全額公費で、高齢者のインフルエンザの接種も概ね公費負担としています。また、マキノ白谷温泉施設は平成13年度に計画され、国と協議、その内容、目的をもって事業採択されたものであり、採択内容で整備させていただきたいと思っておりますが、今後の管理運営方法は充分検討いたします。なお、福祉部門においても、支援措置の厚いところ、薄いところ、手をつけられていなかったところなど、厳しい目をもって制度の見直し、検討をしてまいります。